

「主よ あなたはいつまで」
詩篇6篇(宣教要旨)
説教者 A.Na



嘆き疲れ果て、寝床で
涙を流す夜…みなさん
も経験ないでしょうか。
この詩篇は「悔い改め
の詩篇」(他に詩

32,38,51,102,130,143)と呼ばれますが、深く苦
しみ悩み、不安のうちにある者の切なる祈り
がここにあります。

しかし、嘆きで疲れ果て、寝床で涙を流す
夜があったとしても、ますます主への信仰を
確かにしていただき、喜びをもって祈りと賛
美を献げたいと思います。

《1～3節…主に赦しを求める祈り》

主の御怒りと憤りが私を責め懲らしめてい
るという失意の中にある(1)。主の御怒りとは、
私の不義に対し当然である。それゆえにダビ
デは自分が心理的にも肉体的にも弱り果てて
いることを認める。しかしその中で、主に赦
しを願い、あわれみを求める(2,3)。

「私の骨」…からだ全体。「私のたましい」
…全存在、全人格、その人のすべて。

ダビデは、衰えてしまうほどに弱り切った
私を癒してくださる唯一のお方、主に癒しを
願う。そして主の御怒りや憤りを受けるべき
である自分の不義を悔い改め、私を救い出せ
るのは主のあわれみのみであることを信じ、
ただ主にすがらる。

「主よ あなたはいつまで」…特徴的な
嘆きのことば(詩 13:1,2,79:5,80:4,90:13)。

《4節…主の恵みのゆえに》

苦しみの中、主に見捨てられたように感じ
てしまう…。主が私を見捨て、私から離れて
行かれた…とってしまうほどに…。主が私
のもとへと帰って来てくださるよう求め、
私のたましい、つまり私の全人格、私のすべ
てを助け出してくださいと願う。

もうすでに何度も主の恵みを受け、主の愛
とあわれみ、救いを確信しているからこそ、
あなたの恵みのゆえに、と祈る。

《5～7節…嘆き疲れ果てる》

死にそうなほどに苦しみの中にあっても、
主との交わりを求めるダビデは、死ではなく、
主との深い交わり、主をほめたたえることを
求める(詩 30:9,88:10~12)。

しかし、そのダビデに今あるのは、悲嘆と
悲痛の嘆き…。ダビデは嘆くことに疲れ果て
てしまい、夜ごとに毎晩、寝床で涙する。彼
を救えるのは、自分自身の力や努力でも、涙
し衰えに身をまかせることでもなく、ただ主
のみである。

《8～10節…主の恵みの応答の確信》

「主が私の泣く声を聞かれたからだ」…ダ
ビデは祈りのうちに主が私と共におられ、私
の祈りを嘆きを聞いてくださった、と主の応
答を確信する。

そして今「聞かれた」ことを確信しつつ、
この先もそうであることを確信していく(9)。

自分でさばいたり復讐したりするのではなく、
ダビデは主に信頼し、神が正しくさばかれる
ことを待ち望み、御手に委ねる(10)。

<結びとして>

私たちは、弱くもろい人間であり主の前に
罪人である。しかし、主の一方的なあわれみ、
恵みにより、滅びから救い出され、今新しく
生かされている。

主が助け出してくださるその救いを確信し
て、主にすべてを委ね、喜び、主の御名を賛
美する歩みを始めさせていただきたい。

<私たちの祈り…>

主の助けを信じ委ねて、喜びに変えさせて
くださる主を待ち望みましょう。「主よ あなた
はいつまで」という祈りが、落胆や失意の
ものでなく、私たちにはいつであるかどのよ
うなものであるか分からない、しかし最善で
ある主のみわざを期待し待ち望む、そのよう
な祈りでありますように。